

※追加で調査、措置を実施した場合は概要書の内容を更新する必要があります。概要書記載事項・R3.11版（大阪市）
提出時点の調査及び措置の状況を記載してください。

概要書

1 所在地 大阪市〇〇区〇〇町〇丁目〇番（地番）
大阪市〇〇区〇〇町〇丁目〇 - 〇（住居表示）

地番及び住居表示で記載

2 調査面積 m^2 （敷地面積： m^2 ）

調査面積は土壌汚染状況調査を実施した面積を、敷地面積は敷地全体の面積を記載

3 調査契機 法・条例調査の場合は当該事由を、自主調査の場合は調査の目的を記載

所見は土壌汚染の可能性の有無を結論付けて記載（所見「不明」は不可）

4 土地利用履歴

年代	土地の利用方法	土壌汚染の可能性等の所見
〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月		
〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月		
〇〇〇年〇月～		

5 調査概要

地歴調査（資料調査、聴取調査、現地調査）、測量（位置出し）、現地調査（土壌ガス試料採取・分析、土壌試料採取）及び公定法分析等の各期間を記載

(1) 調査期間

多数の場合は特定有害物質の分類別に項目数も記載

(2) 調査項目

土壌溶出量基準不適合の場合を例示

- ・土壌溶出量、土壌含有量及び地下水基準に不適合である項目について、項目、指定基準、調査深度、検出最大値等を記載
- ・深度調査を実施した場合は、検出最大値深度、調査深度、基準不適合深度を記載
- ・土壌溶出量が第二溶出量基準に不適合であるときは、その旨記載
- ・土壌ガス調査で検出され、深度調査を実施しない場合は、その旨記載するとともに、検出された土壌ガス濃度を記載

(3) 調査結果（基準不適合項目）
＜土壌溶出量＞（mg/L）

項目	指定基準 (第二溶出量基準)	調査深度 (G.L.-m)	検出最大値 (G.L.0~0.5m)	検出最大値(全試料中) (G.L.-m)	汚染の深さ (G.L.-m)	基準不適合区画数 /全単区画数	第二溶出量基準 不適合区画数 /全単区画数
	()	現況地表面 (~)		()		/	/
		地下配管 (~)		()		/	/

＜土壌含有量＞
全て基準適合

「汚染の深さ」:
措置の対象となる深さ方向の範囲を記載

＜地下水＞
全て基準適合

- ・(数値が算定できる場合は)基準不適合面積・土量を記載
- ・土壌溶出量が第二溶出量基準に不適合であるときは、当該面積、土量も記載

6 基準不適合範囲 面積：〇〇 m^2 土量：〇〇 m^3
(第二溶出量基準不適合面積：〇〇 m^2 土量：〇〇 m^3)

7 汚染原因 推測を含む、推測も出来ない場合は「不明」と記載

8 措置概要 措置面積：〇〇 m^2 、措置土量：〇〇 m^3

措置の方法	措置面積 (m^2)	措置土量 (m^3)	対策期間 (予定)
			令和〇年〇月〇～〇日
			令和〇年〇月〇～〇日

9 備考

(1) 現状：

- ・調査報告書提出時に措置計画が策定されている場合には記載
- ・措置内容、措置面積、措置土量、措置期間を記載(予定を含む)
- ・措置の方法を複数用いる場合は各々記載

(2) 今後の土地利用：

現時点の土地利用方法、地表面の様子(=直接摂取の有無)等を記載

(3) 周辺住民等への周知：

予定を含む

実施時期について記載(予定を含む)